

【 事業の目的 】

沖縄県では、令和4年3月に「第2期沖縄県スポーツ推進計画」(令和4年度から令和8年度まで)を策定して各種施策の推進に取り組んでいます。計画においてスポーツツーリズムはスポーツによる地域の活性化のために重要な施策のひとつであり、スポーツキャンプやコンベンション(大会等)の開催等、これまでの取組により一定の成果が見られるところですが、今後さらにスポーツツーリズムを推進していくためには、新たなコンテンツの開発も重要となります。

本事業は、新たなスポーツアクティビティを活用したスポーツツーリズムコンテンツを創出するなど、地域資源とスポーツが融合した観光への取組を支援することで、沖縄県のスポーツ市場の拡大を図ることを目的として実施します。

【 事業の概要 】

補助の対象

(1) 対象となるスポーツアクティビティ

沖縄県内で今後ツーリズムコンテンツ(国内外の観光誘客に資するもの)としての活用が見込まれるスポーツアクティビティで、概ね次に掲げるものとします。

- | | | |
|--|--|---|
|  ① 自転車を活用したアクティビティ |  ② ランニングやウォーキングを活用したアクティビティ |  ③ モータースポーツ |
|  ④ アーバンスポーツ |  ⑤ 武道 |  ⑥ アウトドア(キャンプ、フィッシング等) |
|  ⑦ 沖縄らしいスポーツアクティビティとデジタル技術の融合(AR、VR等) |  ⑧ その他、沖縄県内で今後ツーリズムコンテンツとしての活用が見込まれるアクティビティ | |

(2) 対象となる取組

次の条件を満たし、補助期間の終了後、商品化が見込める事業とします。

- ① 地域や観光関連事業者などと協働し、沖縄の自然環境や地理的優位性を生かしたスポーツツーリズムコンテンツを発掘し磨き上げるため、魅力の引き出し・活用及びその課題解決を図る取組
- ② ①を通し、観光客がスポーツを通じた新たな旅行の魅力を体験でき、地域における観光消費額や満足度の向上を目的に掲げる取組

- (※想定する取組例)
- | | |
|--------------------------------------|--|
| ・活動を予定する地域の観光関連事業者、自治体等との連携構築につながる取組 | ・参加者の安全管理の向上につながる取組(ルール作り等) |
| ・スポーツツーリズムコンテンツの高付加価値化に資する取組 | ・参加者の利便性の向上につながる取組(販売・予約システムの構築等) |
| ・魅力的な情報発信素材の制作・発信(写真・動画制作、メディアへの掲出等) | ・販売ルートを構築するための取組(セールスシート作成・営業活動等) |
| | ・スポーツを通じて新たな旅行の魅力に気づくガイディングスキルの獲得(人材育成等) |

事業期間 交付決定日～令和7年2月中 ※令和7年2月28日までに事業費の精算及び実績報告を行うこと。

資格 応募者は、次に掲げる要件をすべて満たしていることが必要です。

- (1) 沖縄県内に、本店又は支店等の事業所を有する法人であること。共同事業体(役割や費用の分担等が協定書等に定められているものに限る)の場合は、沖縄県内に事業所を有する法人が代表事業者であること。
- (2) 事業の目的を理解し、補助事業を適切に遂行するために必要な人員、管理体制、経営基盤等を有していること。
- (3) 同一事業又は内容で、国、公共団体又はそれに準じる公的制度による補助(委託を含む)等を受けていないこと。
- (4) 地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第167条の4第1項の規定に該当しないこと。
【参考】地方自治法施行令(抄) 第六十七條の四 普通地方公共団体は、特別の理由がある場合を除くほか、一般競争入札に次の各号のいずれかに該当する者を参加させることができない。
一 当該入札に係る契約を締結する能力を有しない者
二 破産手続開始の決定を受けて復権を得ない者
三 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成三年法律第七十七号)第三十二条第一項各号に掲げる者
- (5) 暴力団(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。)又は暴力団員(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。)に該当する者でないこと及び暴力団又は暴力団員と密接な関係を有する者でないこと。
- (6) 会社更生法(平成14年法律第154号)又は民事再生法(平成11年法律第225号)に基づき更生手続開始又は民事再生手続の申立てがなされている団体でないこと。
- (7) 直近の法人事業税及び法人県民税について滞納がないこと。
- (8) 共同事業体の場合、構成する全ての者が(4)～(7)の要件を満たすこと。
- (9) 本補助事業の主要な工程及び本事業終了後の事業展開を県内で実施すること。
- (10) 本補助事業の進捗状況の報告や毎月の成果を報告できること。
- (11) 本補助金を活用し、成果及び商品化(自走化)が見込まれること。
- (12) 採択された場合に、企業名、本補助事業の内容などを一般(新聞、ホームページ等)に公表すること、ならびに本補助事業終了時の成果報告会等に事業の成果を公表することに同意すること。
- (13) 本補助事業の終了後の動向や波及効果等について、フォローアップ評価(追跡調査)を行う場合に協力すること。

補助率 補助対象経費(税抜)の3分の2以内(上限500万円)

※ 事業完了後の検査において、交付決定した取組を実施していなかったことが判明した場合や交付決定した取組と異なる内容を実施していたことが判明した場合は、交付決定の取消や補助率を減じて額を確定することがあります。

沖縄県

令和6年度

新たなアクティビティを活用した

スポーツツーリズム コンテンツ

創出事業補助金

Sports Tourism Contents

「新たなスポーツアクティビティ」を活用する
スポーツツーリズムを経費面と運営面で支援

事業概要報告書(令和6年度)

本補助金は、令和6年度新たなアクティビティを活用したスポーツツーリズムコンテンツ創出事業補助金の補助対象事業者の取組を紹介するものです。
スポーツツーリズムコンテンツ分野での事業展開の参考としてご活用ください。

補助対象事業一覧

事業者名	事業名	補助額
Add One株式会社	マリナクティビティ商品群「クリーンオーシャン」の開発と事業環境の整備	3,793千円
株式会社FUNBASE	うるま海中道路ウイングfoilスクール事業	3,848千円
株式会社まるとまるっと	浦添発祥のユニバーサルスポーツ「沖縄車いすサッカー」の活用促進事業	921千円

補助対象事業者による取組事例のご紹介

事業サマリー

取組内容(テストマーケティング×事業ブラッシュアップ)

事業名：マリンアクティビティ商品群「クリーンオーシャン」の開発と事業環境の整備

事業者名：Add one株式会社 総事業費：5,691千円 補助額：3,793千円

アクティビティ名 水中スクーターとeFoil 内容 水中スクーターとeFoilの商品企画・モニター実施による今後の自動化テストマーケティング 活動地 恩納村・リザンシーパークホテル 谷茶ベイおよびその周辺の海岸、海域

1 現場の検証 2 利害関係者との協議・合意の取り付け 3 PR資料(営業資料他)制作・告知 4 モニターの様子

今後の目標

事業目的
電動のクリーンな最新機器を導入し、マーケティングと沖縄独特の環境に合わせたアレンジを施すことで、空白領域を埋める新たなアクティビティ商品を開発する。これら新商品は新たな需要を喚起し、他では得難い魅力が高い付加価値をもたらすと同時に、既存のアクティビティを提供する事業者や宿泊業など地域の観光産業全体にも波及効果をもたらす。

課題・今後の展開
(水中スクーター)
・体験をさせる商品を用意できたが障害物の設定などによるゲーム性を持たせたアクティビティに関しては、難易度やニーズの面から検討が必要
(eFoil)
・短時間でボード上に立って、楽しめる人は限られる。このアクティビティに向いている人に商品の魅力を伝え、集客していくには、プロモーションやホテルでのお勧めの仕方にさらなる工夫が必要



事業成果
(観光客のニーズと市場動向の把握)
・事業によりこれからのニーズを満たし、事業を発展させるための方向性が確認できた
・新商品が備えるべき要件が把握できた
(フィールドの環境把握)
・候補エリアで新たな商品群の運営が可能であることが確認できた
(ホテル、観光協会、漁協など関係者との調整)
・新商品の展開について関係者からの了承が得られ、協力体制を構築できた
(商品概要と使用機材の検討)
・コンセプトやターゲットを設定し、具体的に詳細な商品概要を決められた
・商品概要に合った機材を選定し、使用のノウハウを習得した

1 現場の検証 2 利害関係者との協議・合意の取り付け 3 PR資料(営業資料他)制作・告知 4 モニターの様子

クリーンオーシャンとは?
CLEAN OCEANは、環境に優しい電動スクーターとeFoilを組み合わせ、海を安全に楽しむための新しいアクティビティを提供しています。

県内目標	R7年度 (発売)	R8年度 (商品拡充)	R9年度 (提供拡大)	R10年度 (提供拡大)
県内参加者(人)	100	150	200	300
県外参加者(人)	500	1,500	2,300	4,700
海外参加者(人)	200	350	500	1,000
総集客数(人)	800	2,000	3,000	6,000

事業名：うるま海中道路ウイングfoilスクール事業

事業者名：株式会社FUNBASE 総事業費：5,772千円 補助額：3,848千円

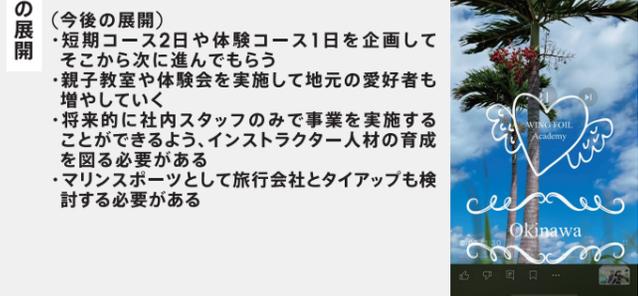
アクティビティ名 ウイングfoil 内容 ウイングfoilのスクール事業の企画・モニター実施による今後の自動化テストマーケティング 活動地 うるま海中道路あやし館付近

1 スクール運営マニュアル・各種手順書等の制作 2 PR資料(チラシ他)制作・告知 3 モニターの様子 4 受講生カルテ(帳票とDB連携)

今後の目標

事業目的
新たなマリンスポーツであるウイングfoilを通じて継続的な経済効果を生み出す。具体的には、スクール生の宿泊・交通・飲食・観光などの経済的な効果を見込む。ウイングfoilが注目されることと同時に、地元沖縄出身者のウイングfoil選手をジュニア段階から育成する。

課題・今後の展開
(課題)
・当初8日間の総合スクールを考えていたが、長期で休暇を取得できる人が少なく見込みが甘かったため、基礎コース4日間と初級コース4日間に分割して申込みできるようにした
(今後の展開)
・短期コース2日や体験コース1日を企画してそこから次に進んでもらう
・親子教室や体験会を実施して地元の愛好者も増やしていく
・将来的に社内スタッフのみで事業を実施することができるよう、インストラクター人材の育成を図る必要がある
・マリンスポーツとして旅行会社とタイアップも検討する必要がある



事業成果
・スクール期間に関する需要の検証ができた
・カリキュラム及びマニュアルを策定したことにより、事業期間中の円滑な軌道修正が可能となった
・スクール生ごとのカルテを作成し、満足度を上げた。また次回の指導にも生かせるようになった
・受講生には、受講した風景を撮影して動画で渡すサービスを導入したことで、満足度を高められた
・保険料は自己負担とするが、無料体験による囲い込みにより、スクール生の増加が見込めることがわかったため、事業終了後の営業戦略として、注力をしていく

1 スクール運営マニュアル・各種手順書等の制作 2 PR資料(チラシ他)制作・告知 3 モニターの様子 4 受講生カルテ(帳票とDB連携)

冬だから沖縄に行こう!
8日間のマンツーマンスクール
WINGFOIL ACADEMY

顧客目標	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
総合コース(8日間)	5人	10人	10人	10人
基礎コース(4日間)	10人	20人	30人	40人
初級コース(4日間)	15人	30人	30人	40人
体験コース(1日4時間)	10人	50人	100人	100人

事業名：浦添発祥のユニバーサルスポーツ「沖縄車いすサッカー」の活用促進事業

事業者名：株式会社まるとまると 総事業費：1,382千円 補助額：921千円

アクティビティ名 手動車いすサッカー(沖縄車いすサッカー) 内容 体験会や県外営業、PR資料作成による今後の自動化テストマーケティング 活動地 浦添市内

1 ルールブック・各種手順書等の制作 2 PR資料(チラシ他)制作・告知 3 県外営業の様子 4 モニターの様子

今後の目標

事業目的
浦添発祥のユニバーサルスポーツ「手動車いすサッカー」を「沖縄車いすサッカー」として定着させるために、修学旅行生の受入などの事業実施による基盤強化に取組み、県内外における認知度の向上を図る。

課題・今後の展開
(課題)
・ユニバーサルスポーツを学ぶことで得られる学習効果を検証できるような説明がまだ不足していると感じた
・道具の数に限りがあることで参加人数を制限せざるを得ず、他のバラスポーツやユニバーサルスポーツなどと組み合わせる形での取り組みを検討する必要がある
・今後は会場となりうる場所と近接する県内の宿泊施設等とどう連携させて受注することができるか、連携を模索する必要がある
(今後の展開)
・宿泊施設や各地域の観光協会など同業の方々へ営業をして、競技を認知してもらい、雨天時の代替プログラムとして認知活動に取組む
・本事業をきっかけに繋がった、障がい者スポーツ団体と連携して、車いすサッカー以外の競技と組み合わせることで受け入れ可能人数を増やして収入増を目指す
・営業活動を通してターゲットが定まってきたので、県外のスポーツに力を入れている学校や特別支援学校などにも営業活動を行う



事業成果
・実際に修学旅行生に向けて競技体験を行うことができ、修学旅行プログラムとして成立させられる手ごたえを得られた
・本事業を通して車いすサッカー協会と既存の競技者にとっても競技普及のきっかけをつくることができた
・ルールブックや映像という成果物を作ることができた
・体験会を重ねる中で、実施方法を検証・改善し、プログラムとして完成させることができた
・県外に営業に出たことで、単独での実施よりも雨天時の代替プログラムとして需要があることもわかった

1 ルールブック・各種手順書等の制作 2 PR資料(チラシ他)制作・告知 3 県外営業の様子 4 モニターの様子

沖縄車いすサッカーとは?
WINGFOIL ACADEMY

誘客目標	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
修学旅行(人)	40	80	120	120
学校数(校)	1	2	3	3
総集客数(人)	40	80	120	120